

第4回 再築基準検討委員会

平成28年1月15日

15:00～17:00

於 事務局会議室

1、開会宣言

事務局

2、委員長挨拶

杉本委員長

第1回総論、第2回床下、第3回屋根と議論を進めて参りました。今回は維持管理の流れ（フロー）についてご意見を頂きます。事前配布させて頂きました資料を元に議論させていただきます。フローに基づきユーザーに提案するための再築基準を決めて参ります。次回にまとめてしっかり資料を作成して答申させて頂きたいと思っております。

3、前回議事録確認

承認

4、出席者確認

杉本委員長、中島委員、南山委員、五十嵐委員、橋本委員、鳥越委員
大室委員（手塚委員・樫村委員欠席） 事務局・井上

5、議事録作成者

事務局

6、協議（維持管理の流れについて）

- ・ 提案対象の古民家は「住んでいる住宅」だけでなく、「空き家」に対しても必要。
- ・ 消費者、所有者にインスペクションの必要性を訴えていく。
- ・ 再築前の維持管理と再築後の維持管理とは、対応法が違う。再築後の維持管理を義務づけにしないといけない。
- ・ 維持管理しやすいようにする。

- ・劣化対策を考える必要がある。
- ・不同沈下は古民家の場合には不要。事故については議論から外す
- ・古民家独自の基準が必要か？品格法で十分ではないか？
- ・床下を見ないで維持保全管理基準を考えるのは難しい。
- ・床下インスペクションは必須としなくてはならない。
- ・古民家鑑定に床下インスペクションはいれないといけない。
- ・古民家鑑定が前提の議論にしないといけない。
- ・結局、都度判断ではないか？
- ・古民家で今までシロアリ出ていなければこれからも出ない。
- ・増築した場合通風が悪くなり腐朽するケースが多い。
- ・蟻害があれば駆除しかない。
- ・メンテナンスがやりやすいように施工をする。配管を隠蔽しない、点検口を設けるなど、品確法に準ずる基準も伝統構法として取り入れるべき。
- ・点検をやりやすいようにする。
- ・雨水の侵入は修理しかない。
- ・検査する日は「晴れている日」が適当。
- ・雨漏り等は「雨に日」に検査が必要。
- ・万年床の畳は湿気が多くなる。万年床にしない等、日常のメンテナンスもユーザーにアドバイスする。
- ・畳は定期的に干すようにする。

屋根は次回にする。

- ・トタンカバー工法を明言していいのか？
- ・漆喰の補修が必要は問題があるので再考する。問題はほとんど下地によるもの。
- ・小屋換気は必要か？
- ・換気は必要。

7、次回委員会開催

平成28年2月12日（金）15：00～17：00 事務局会議室

8、閉会宣言

事務局

